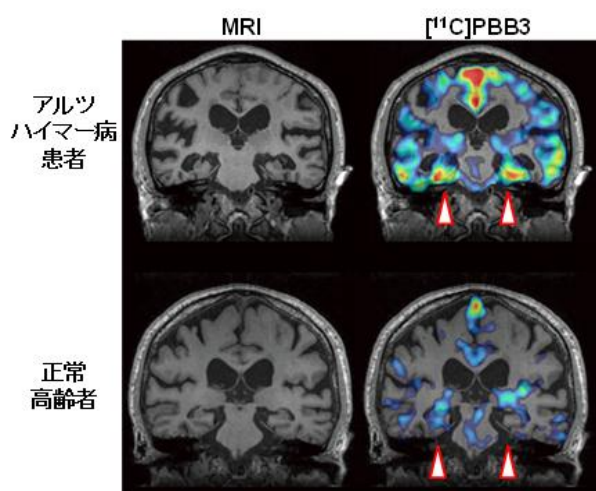


認知症は世界的な問題として・・(1)

いま、日本は総人口に対し 65 歳以上を占める割合が 21%以上という超高齢社会を迎えて既に 7 年目になります。これに伴い認知症者は 462 万人であり、さらに軽度認知症者 (MCI) の 400 万人を合わせると 800 万人の認知症時代を迎えています。そして、世界の認知も 4,400 万人であり、2050 年には 1 億 3500 万人と日本人口を越す勢いです。

認知症は癌や心臓病、脳卒中などに比して生存期間が長く、介護・医療のコスト面で国家の財政を圧迫して行きます。2013 年 12 月にロンドンで「G 8 認知症サミット」が各国代表と EC,WHO,OECD の代表、さらに学者や製薬会社などが共通課題として意見交換が行われた。そして、'15 年には「新しい介護と予防」をテーマに日本で開催される予定です。

放医研 (須原 哲也主任ら) は、世界で初めてアルツハイマー病脳内での神経原線維変化 (タウ蛋白, tauopathy) の異常蓄積を画像化することに成功した (右図)。上段のアルツハイマー病患者では、下段の正常者に比べて海馬領域 (矢頭) にタウの集積が顕著に見られる。



一方、認知症の脳病理の推移 (下図) から神経細胞の外に沈着する老人斑 (アミロイドβ) は発症の 25 年前より蓄積し始めているが発症後は減少する。このことよりタウ蛋白の蓄積がアルツハイマー病の主な神経細胞死の要因と示唆されています。

